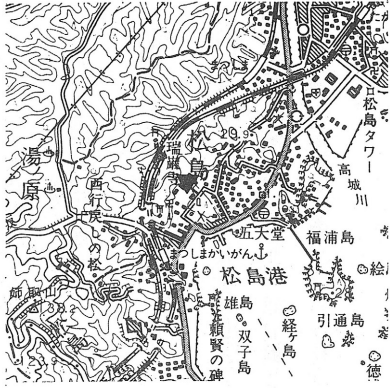


宮城・**円福寺遺跡**  
えんぷくじ

- 1 所在地 宮城県宮城郡松島町松島字町内
- 2 調査期間 一九九一年(平3)三月～四月、五月～七月
- 3 発掘機関 宮城県文化財保護課・瑞巖寺
- 4 調査担当者 後藤勝彦・新野一浩
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀中頃～一四世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松島)

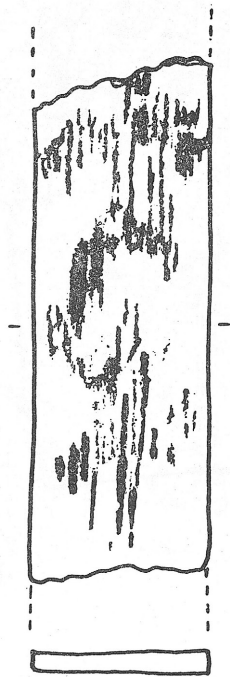
円福寺遺跡は、塩釜市街地の北東約7km、松島湾の北西部に位置する。遺跡の立地は、北西から南東に向かって伸びる谷の開口部にあたる海浜低地で、標高4m前後を測る。

円福寺遺跡の調査は、瑞巖寺の地下貯水槽改修工事と宝物館新館建設に伴う事前調査で、宮城県文化財保護課の指導を受け、瑞巖寺が実施したものである。非常に限られた範囲の調査で

あったが、中世に存在した円福寺に関わると思われる基壇などの遺構と多量の遺物が発見された。しかし、遺構の年代を示す資料がない。円福寺に関する文献も少ないため、詳細な年代は判然としないが、一三世紀中頃から一四世紀末と思われる。

遺物は整理用コンテナに約一〇〇箱ほどである。瓦が最も多く、次いで国産陶器(瀬戸・常滑・地元産)・木製品、また若干の輸入青磁片も出土した。瓦や陶器は火災後に行なわれた整地の土に大量に含まれていたが、木製品は自然堆積層中にあり、保存状態はきわめてよい。ほとんどが箸・木匙・曲物・折敷・漆器などの日用品で、珠数玉・舟形などの信仰に関わるものは非常に少ない。

木簡は一点のみ出土。遺構に伴う状況ではなく、大量の木製品を含む自然堆積層から、箸・櫛・漆器・木匙・下駄・削屑等とともに出土した。



8 木簡の釈文・内容

(1) □□□

(70)×23×3 081

木簡は上下を欠失する。文字はにじんだようにみえ、赤外線をあててみたものの判読はできなかった。

9 関係文献

瑞巖寺博物館『円福寺遺跡事前発掘調査報告書』(一九九二年)

(新野一造)